

## 「英検」も「日米会話学院」も、「世界に通用する」英語力がテーマです。

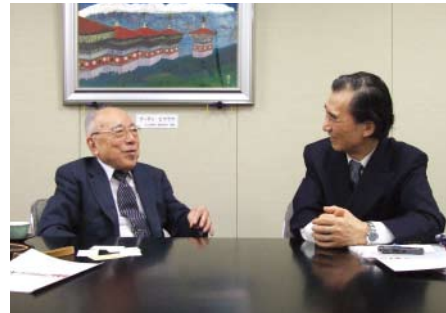
1945年の設立以来、内容のある大人の英語コミュニケーション能力を習得できると評判のスクールが日米会話学院です。そして、1963年にスタートし、今や毎年250万人が受験する「英検」を運営する組織が財団法人 日本英語検定協会です。今回は日米会話学院の学院長を務める大井先生と、財団法人 日本英語検定協会の会長を務める羽鳥先生に、英検と英語教育について語り合っていました。

### ● 軽い英会話のみで終わらない、国際共通語としての英語習得を目指す

**大井:** 本日は、国内最大規模の英語検定試験「英検」を実施する協会の会長である羽鳥先生と、日本人の英語力や英検の役割、そして英語上達法についてお話したいと思います。まず私からお聞きしたいのですが、最近の日本の英語教育は読解力を重視しない「軽い英語」へ傾いているようです。羽鳥先生はどのように感じていらっしゃいますか。

**羽鳥:** プラクティカル（実用的）な英会話学習に振り子が行き過ぎている印象が私にもあります。ちょっとした会話やパーティー程度なら通用するかもしれませんが、しかし、今や日本の文化やビジネスは世界中から評価されており、国際共通語である英語でしっかりと海外の人とコミュニケーションするためには、もっと正統派の英語力を身につける必要があるでしょうね。そのためには、「聞く」「話す」だけでなく「読む」「書く」という能力が不可欠です。

**大井:** 同感です。インターネット時代になって、メールによる文書のやりとりで海外とのコミュニケーションを行うことが増えた状況から考えても、読解力を習得することは



とても大切なことなのです。そうした意味でも、私は英語を学習する人々には「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を的確に測定し、可否を判定する「英検」の受験をつねに奨めています。例えば、大学生の皆さんには在学中に「英検2級」は取ってほしいし、卒業までに「準1級」を目指してほしい。それが、正統派の英語力を身につけるための学習につながるからです。

**羽鳥:** これは私の持論ですが、4技能をすべて同時に上達していこうとすると大変です。そこで、ある一点から集中的に学んでいく。そうすると、他の力も伸びてくる。これは私自身の経験に基づく考え方で、英語学習をスタートした中学生の頃、毎日繰り返し、英語の文章を書く学習を行ううちに、語彙が増え、構文が理解できるようになりました。「書く」ことから始める。もちろん「話す」ことから始めても良いのですが、目的は4技能すべてをアップさせること。それを忘れてはいけません。

**大井:** 「書く」力を身につけるためには、読めないといけない。まず、読み書きのトレーニングですね。私はその学習に「音読」を取り入れることをおすすめします。

**羽鳥:** 同時通訳者の国弘正雄さんが英語を上達する秘訣は「ひたすら音読」とおっしゃっていますね。私も同感です。さらに懐かしい言葉で「復文法」という学習法



「財団法人 日本英語検定協会」会長 羽鳥博愛さん  
東京学芸大学名誉教授（英語・教育学）

もあります。これは、まず英語の文章を声に出して読んでからそれを和訳し、ノートに書く。次にその訳文を英訳し元の英文と比べる。時間はかかりますが、先程お話し

た私が中学生のときの英語上達法が、この「復文法」でした。最初はつらかったのですが、いつのまにか英語が楽しくなったことを覚えています。

### ● ステップ・ブラッツ 世界基準のビジネス英語能力テスト「STEP BULATS」に注目してほしい

**大井:** ビジネス英語も当然「話す」力だけでは不十分です。日常的な英会話力や読み書きの力を身に付けてただけでは、多様なビジネスの現場では通用しないのが実情ですね。

**羽鳥:** その通りです。企業活動のグローバル化が進んできた昨今、日本人も英語で自分たちの仕事や製品のことをコミュニケーションできなければなりません。そのようなビジネスシーンにおけるコミュニケーション能力向上のために役立つ検定試験を協会ではスタートしています。英国ケンブリッジESOLと協力して誕生させた「STEP BULATS（ステップ・ブラッツ）」です。この検定試験は、ビジネスの現場で真に必要とされる英語の「聞く」「話す」「読む」「書く」力を評価するもので、すでに世界中の企業や官公庁などで高く評価されているケンブリッジESOLの英語力測定ノウハウと英検のノウハウがひとつになったものです。これからのビジネス英語検定の基準となることでしょう。

**大井:** それは注目すべき検定試験ですね。目標があってこそ、学習意欲も高まります。ぜひ、日米会話学院にも「STEP BULATS」に協力させてください。実は、すでに英検の「準1級」や「1級」に合格していて、さらにビジネス英語力を伸ばしたいビジネスマンは少なくありません。そういった人々に最適な新しいターゲットとなることでしょう。

**羽鳥:** 「英検」はこれまで、英語を学ぶ人の目標となることで、側面から皆さんの英語力上達を支えてきました。その役割は、これからも変わりません。さらに精度を高めたものにしていきます。世界のさまざまな人と英語で話す時、微妙なアクセントの違いがあることに気が付きます。日本人もきっとそうでしょう。でも、そんなことに気を遣うより、中身のある英語を

しっかりと話せる力を磨くことです。落ち着いて堂々と世界中の人と英語でコミュニケーションできるようになりましょう。そのためには、英語の4技能すべてを大切にする学習を続けてください。私もかつて大学時代に週5日、夕方2時間ずつ、「日米会話学院」に通い、いろいろな先生に習うことで、多くの豊かな英語に触れ、英語力に磨きをかけた経験があります。その力が、私が大学卒業後、英語の教育者となるための大きな支えとなりました。皆さんにも、機会があったらぜひ、開校以来ずっと本格的な英語教育を実践し続ける「日米会話学院」で英語力を鍛えることをおすすめします。

**大井:** これからも、共に日本の英語教育のために努力していきましょう。今日は、ほんとうにありがとうございました。



「日米会話学院」学院長 大井孝さん  
東京学芸大学名誉教授、財団法人国際教育振興会理事長。

**日米会話学院** 1945年設立

英会話学習からプロ通訳者・翻訳者養成まで

**日本語研修所** 1967年設立

初級日本語からビジネスプレゼンまで

**国際交流事業**

● 外国人による日本語弁論大会 (NHKで放送) ● 日米学生会議 他

**財団法人 国際教育振興会**

www.nichibei.ac.jp TEL03-3359-9621 info@nichibei.ac.jp

〒162-0824 東京都新宿区揚場町2-14 新開ビル (JR飯田橋駅東口より徒歩4分) 四谷校舎改築のため移転中 (2008/3まで)